

セイデンテクノ 株式会社

DX宣言書

2026年1月13日
セイデンテクノ 株式会社
取締役社長 柴原 健司

□ 経営理念

佐渡を拠点に「ものづくりで未来を創る」ことを理念とし、社員・地域・お客様と共に成長し、社会に貢献します。技術革新と地域資源の活用により、持続可能な発展を実現し、「佐渡から世界へ」の想いを形にします。環境配慮や地域との共生を大切に、社員の成長と幸福を企業の発展につなげます。

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 社員一人ひとりがデジタル技術を主体的に活用し、業務改善や新たな価値創出に挑戦できる環境を整備し、自己成長と働き甲斐を実感できる企業文化を築きます
- ◆ 地域と連携し、地域の新たな価値創造や活性化に貢献するとともに、環境に配慮した持続可能な事業運営を実現します
- ◆ デジタル技術を活用した情報発信・生産・サービス体制により、佐渡発の技術と価値を国内外に届け、世界に通用するものづくりを推進します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2026年4月)

戦略 「DX推進に向けた土台づくり」

- 施策
- ・ 社員がDXを自分事として理解し、業務改善に取り組むきっかけをつくるため、LMS※による基礎研修や社内・他社の改善事例の共有を実施
 - ・ 現状の業務フローを調査し、改善が必要な業務を特定
 - ・ 特定した業務の重要度と改善効果を整理・優先順位を設定し、段階的な改善に取り組む計画を策定

※LMS…学習管理システム

➤ フェーズ2(2026年5月 ～ 2027年4月)

戦略 「業務効率化とデータ活用」

- 施策
- ・ フェーズ1で策定した計画を実行・検証し、得られた成果を全社へ展開することで業務改善のサイクルを確立
 - ・ LMSによる個人の学習履歴と生産管理データを活用して改善ポイントを特定し、社員がデータに基づいた業務改善を実行できる仕組みを構築
 - ・ 社員提案制度を再周知し、地域との連携や業務改善に繋がるアイデアを共有・実践する仕組みを整備
 - ・ 地域の方々との意見交換やワークショップを通じて、地域課題への理解を深め、業務改善への気づきや新たな事業機会の可能性を探る機会を創出

➤ フェーズ3(2027年5月 ～ 2028年4月)

戦略 「スマートファクトリー化と価値創造の推進」

- 施策
- ・ デジタル技術を活用し、生産・在庫・資材管理の自動化とリアルタイムでの可視化を実現
 - ・ 生産管理・ワークフロー・LMSのデータを分析し、業務プロセスの最適化を行うとともに、社員による改善提案の実行を効率的に行える仕組みを構築
 - ・ KPIと成果を社内で可視化し、社員による改善提案・活動を評価・表彰して主体的取り組みを維持

□ DX推進体制

- ・ 取締役社長がDX推進における実務執行統括責任者を務めます
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- | | |
|------------------------------|---------------------------|
| ・ 改善提案数 | : 5件以上/月 |
| ・ DX勉強会の実施 | : 毎月1回以上開催 |
| ・ 社員アンケートで「考える時間が増えた」と回答する割合 | : 2026年度比 70%以上(～2028年4月) |
| ・ 工程ミス削減率 | : 2026年度比 20%以上(～2028年4月) |